

こどもまんなかフォーラム（第1回）

1. 日時 令和4年9月22日(木)17:00～18:06

2. 場所 経済産業省別館104共用会議室

3. 出席者

【こども】

小学生（5・6年）～中学生 8名

※内閣府「ユース政策モニター」から公募

【大人】

小倉 将信 こども政策担当大臣

自見 はなこ 内閣府大臣政務官

伊佐 進一 厚生労働副大臣

伊藤 孝江 文部科学大臣政務官

渡辺 由美子 内閣官房こども家庭庁設立準備室長

西崎 萌 内閣官房こども家庭庁設立準備室員

※ファシリテーター

4. 概要

○渡辺室長（由美子さん） それでは、皆さん、こんばんは。ちょっと寒いですけれども、ようこそお越しくださいました。

それでは、これから「こどもまんなかフォーラム」を始めたいと思います。

私は、こども家庭庁という皆さんのための役所、来年4月にできますが、こども家庭庁設立準備室というところの室長をしています渡辺由美子といたします。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、今日まず最初に、小倉大臣から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○小倉こども政策担当大臣（まあくん） 皆さん、こんにちは。まあくんこと、こども政策担当大臣を務めております小倉将信と申します。こどもまんなかフォーラムに参加をしてくれてどうもありがとうございます。

ちょっとみんな緊張している？ 背伸びしてください。ちょっとおじさんは四十肩であまり上がらない。背伸びして、脱力、ちょっと緊張は取れた？

今日、みんな参加をしてくれまして、社会とか国に対するいろいろな思いはあると思います。皆さんが生活していて、この国のルールとかで、自分たちの

意見とかが反映されていると思ったことがある人は手を挙げてくれるかな。いないでしょう。大体大人たちがルールを決めて、自分たちが大人が決めたルールに従っていると毎日思っているでしょう。

日本では昔から子宝という言葉があります。まさにこどもは宝という意味なのだけれども、昔から私たちの社会は、こども一人一人がかけがえのない存在だと思ってきました。まさに皆さん方一人一人が自分らしくすこやかに、幸せな状態で大人になれるように、社会全体で支えていく必要があると考えているのです。

ただ、みんなが今思っているように、残念ながらこの国の形というのは、もしかしたら大人中心で決めてしまっていたところもあるかもしれません。そこで、この国の形、この社会の形をこどもまんなかにつくり変えていこうというのが、来年の4月に発足をするこども家庭庁という組織なのです。私たちはちょっと難しい言葉で言えば、こどもの最善の利益と言っているのですけれども、こどもにとって、若者にとって、何が最もいいことかということ、こどもの目線、若者の目線で考えて、政府の様々な仕事をリードしていく。こういう組織にこども家庭庁をしたいと思っています。

そのために、こども大綱という言葉があるのだけれども、こども大綱という政府の大きな方針を来年つくることになっています。このこどもまんなか社会においては皆さん方一人一人が主役なのです。何よりも大切なのは、皆さん方一人一人の意見なのです。このこども家庭庁という組織は、単にこどもを対象とした、若者を対象とした政策を前に進めるだけではなくて、まさにこどもや若者の皆さんと一緒に考えて、こども政策を考えてつくっていく、そういう組織にしていくつもりです。

そういう意味では、今回参加をしてもらったのは、日頃みんなが生活をしていて、国にこのように変わってほしいなとか、社会のルールがこういうルールで窮屈だなと感じていることを何でもいいから言ってもらいたいと思います。今日、みんなに言ってもらった意見を、今言ったこども大綱という大きなルールを考える会議に私が報告をして、担当の大臣として責任を持って今日みんなからもらった意見を反映していきたいなと思っています。

短い時間かもしれないけれども、リラックスして、遠慮なく私たちに意見をいただけるとありがたいなと思います。どうぞよろしくお願いします。

○渡辺室長（由美子さん） 小倉大臣、どうもありがとうございます。

それでは、ここからはめぐちゃんに進行をお願いします。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） こども家庭庁設立準備室のめぐちゃんです。今日は皆さんお集まりいただきありがとうございます。

先ほど、小倉大臣ことまあくさんからお話があったとおり、今日はこども家庭

庁について期待することとか、それから、政府にこんなことを取り組んでほしいなということをお話し合うために、小学生と中学生の8人の皆さんにお集まりいただきました。

大人側が、まあくんのほかに、こども家庭庁の準備をしている厚生労働省というところの副大臣のしんちゃんこと伊佐副大臣、それから、はなこさんこと自見はなこ政務官、そして、学校とか図書館とかのことを担当しているたかえさんこと伊藤政務官が参加しています。

まず、こどもの皆さんからお話を最初に聞きたいなと思っています。大体1人2分ぐらいでお話してきて、みんな準備したものを出しても大丈夫ですので、こどもの皆さんはすごい熱心に準備してきてくれたので、ぜひそのお話から伺いたいなと思います。

まず、あゆさんからお願いします。

○あゆさん 何を話したらいいか分からないのですけれども、何がいいと思いますか。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） では、何個ありますと、これとこれとこれです、どれが聞きたいですかと聞いてみたらいいかもしれない。

○あゆさん 家庭について、学校でITを使う今のことについて、公園の遊具について、学校以外で過ごす場所のこと、貧困のこと、図書館や本屋さんに置かれている本のこと、という感じです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 学校以外のこと、例えば公園のこととか、すごいいろいろ出てきそうですね。その辺についてまず聞いてみましょうか。3番目が公園で、4番目が多分学校以外の過ごす場所ということも言ってくれたと思うので、その辺のことかな。もしくはあゆさんがどれを一番言いたいというのはある？

○あゆさん 学校以外で過ごす場所のこと。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） それから聞いてみたいと思います。

○あゆさん 両親共働きや、母子・父子家庭が多いから、こどもが夜遊びして危ない場面があります。中高生のこどもでも集まれるコミュニティーができればいいと思います。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） それ以外にもぜひ。

○あゆさん 遊具とかは、こどもとかが危ないだけで、親がしっかり見ていないから、遊具とかがどんどん減っていっちゃって、中学生ぐらいから体が硬くなるのです。私も柔道とか相撲とかをしていたのでこんな見た目なのですから、それなので、だんだんと硬くなってきているなというのが実感して、でも、遊具とかで足を伸ばすものとか、危ないからやはりなくなってしまっているのが多いのです。ボールとかを昔はしていませんか？ でも、危ないからな

くなってしまうのです。ボールがぶつかり、やはりガラスが割れてしまうことがあるのですけれども、体を動かすことで心もメンタルも上がることがあるので、増やしていけばいいなと思うのですけれども、地域の人とかの多いあれもあるので大変ですよ。

そこを考えながらすると全然意見が出ていかないのと考えていないのですけれども、ぜひ体を動かすようなものとか、公共的なものを増やせば、きっと体も心も元気になるのではないかなと思います。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 昔は公園にあった遊具がどんどんなくなってしまっているなど感じたりとか、ボールを使っちゃいけないというルールが増えたと思うということですかね。

○あゆさん あと、中学校になると、いろいろな遊具も減ってくる。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 中学生が遊べる遊具が減ってくる。

○あゆさん 中学生は勉強することもあるけれども、やはり家に閉じこもってしまうから。もうちょっと増やしたらいいなという感じです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

中学生でも遊べる遊具とかを公園にぜひということですよ。

続いて、夜空さん、お願いします。

○夜空さん 僕が国に伝えたいことは、こどもが亡くなることをなくしたい。あと、世界に一つだけの花の歌詞のように、誰もが自分らしく伸び伸び生きられる社会になってほしいということです。

皆さんは小学生の頃、どんなことを思って過ごしましたか。勉強が得意で有名な大学を卒業していないと、こども家庭庁には入れませんか。

こども家庭庁の皆様に期待したいことは、ヤングケアラーや家庭の事情で学校に通うことはできても勉強が二の次になっているこどもたちや、親から虐待を受けて育った子や、家庭にいられず児童養護施設で育ったこどもたち、発達障害があって普通の子ができることができなくて、障害があるように見えないため、周りの人たちの理解を得られにくく、生きづらさを感じながら育ったこどもたち、安倍元総理大臣が銃撃されたことでニュースになっている宗教二世問題のこどもたちに、こども家庭庁の門戸が開かれていてほしいです。

上記の当事者は、社会的に弱者で、自分のことで手一杯で声を上げられる機会が少ないと思うからです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

今、家庭の事情で勉強ができない子とか、いろいろなヤングケアラーだったり宗教二世だったり、すごくバックグラウンドのいろいろなこどもたちがいるということを夜空さんを通して教えてもらえたかなと思います。

では、次に話したい人、どうでしょう。

木村さん、お願いします。

○木村さん 私は多様性を認めようという社会に反対しています。多様性と言われると、あえて何か自分と違う人を尊重するという意味があるので、多様性を尊重しようではなく、そもそもみんなどんな人であっても認めるようにしてほしいです。単に仲よくしようではないですが、気軽に話し掛けてみるということが出来るような社会に変えていってほしいなと思っています。

あとは、私が小学生の頃、いろいろな子がいて、家庭の事情で、その子の妹さんが万引きをしてしまったり、その子自身もお母さんがなくて、家でほとんど家事をやってから学校に来たり、YouTuberになってお金を稼いだり、何かいろいろな方法を駆使して頑張っていました。ただなかなかお金は集まらず、年中半袖短パンみたいな恰好で、その子自身も友達はいっぱいで楽しんでいたけれど、それで大丈夫なのかなと気になっていました。もっと皆を幸せにできるような社会とか制度をつくってほしいなと思っています。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 多様性についてのこと、私もなるほどなと思いました。ありがとうございます。

そうしたら、次に話したいなという、いかがですか。

もあなさん、吉村さんで聞いてみましょう。手を挙げてくれてありがとう。

○もあなさん 私は大きく3つに分けてた内容があって、1つ目はジェンダーやプライバシーに関してのことで、その中でも7つあるのです。

1つ目は、学校で内科検診があると思うのですが、そのときに、私の学校では男性のお医者さんが内科検診をやっているのですが、私は一応女子なので、女性のお医者さんに内科検診で診てもらいたいなと思っていることがあるので、同性の人がお医者さんだと安心できるなと思いました。

2つ目は、同室で着替えていることで、1年生が体育などのとき、体操服や水着に着替えるときに、男女が同室で着替えているので、そこも直してほしいなと思っています。

3つ目は、一応男子と女子で分かれているときもあるけれども、教室のドアが透明なので透けて見えるという現状があるので、そこも改善してほしいと思っています。

4つ目は、通学帽子で、体操服の赤白帽子はキャップ型なのに、通学帽はなぜか女子はハット型で男子はキャップ型ということになっているので、女子であっても機能的なキャップ型がいいなと思うので、直してほしい。

5つ目は、ほかの部活は男女ともに入れるのですが、ミニバスケット部に男子が入れないことで、担任の先生に聞いてみたところ、大会などの登録の際に、男子の登録ができないみたいだよと言われ、その理由は分からないみたいで、そこも性別によって男子が損しているように思いました。

6つ目は、背の順の話で、背の高さは体のことなので努力ではどうにもならないことで比べられて順番をつけられているし、あと、出席番号順などでも並ぶには十分で、背の順にする理由も、並ぶたびに身体的特徴を比較されて傷つくことに比べて、あまりメリットが感じられないこと。

7つ目は、席順のことで、席替えなどをした後に、市松模様に男女が並んでいるので、同性の仲のよい友達などと近くになりたかったりするのになれないので、なぜか席の順番がそうなっていることなど、以上が、ジェンダーやプライバシーに関することです。

2つ目は、SDGs のことで、それにも5つあります。

1つ目は、学用品が個人持ちであることで、習字道具や裁縫セットなどが1人1つ用意する必要がある理由で、学校で貸し出しなどにすれば、資源を効率的に使う点でいいこともあるので、1人1つ買うとあまり使わないときや、卒業して処分するときにも無駄になるのではないかと思ったことです。

2つ目は、そういった学用品が性別や学年で色指定などになっていることがあって、きょうだい間でお下がりができなかったりして、兄弟などがいて、弟と妹などと性別が違くと、色指定によってお下がりができないこと。

3つ目は、学校の設備やシステムのことで、洋式の便座が冷たかったりすることと、男子トイレに比べて女子トイレの個室の数が少ないため、女子トイレは並ぶ列ができていることがあることなどです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）

いろいろなことが出てきましたが、その根底には男女の区別が学校生活にこんなにいっぱいあるのだなと聞かせてもらいました。ありがとうございます。

そうしたら、吉村さん、お願いします。

○吉村さん 僕は、こどもの生活にとって大事なこどもの権利というやつの守られる権利について考えて、こどもの虐待などのニュースを最近よく見るのです。5歳の子が虐待で死んじゃったとか、それで、どうやったら減るのかなって思って考えたのが、こどもの居場所を増やして大人との関わりを増やしてあげるといいかなと思いました。

あと、学童はお母さんとか親が働いていないといけないという条件があって、そういうのをなくすと、虐待を受けている子とかが自由に行けたりするのでいいかなと思いました。

あと、無料の習い事とかがあると、自分がやりたいこととかが何かできるからいいと思いました。

最後にもう1個が、気軽に相談できたり御飯が食べられるところがあると、貧困の子とか虐待の子とかが悩んでいることとかを大人に話したら悩みが解決したり、嫌なこととかが発覚したりするのかなと思いました。

終わりです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 虐待に対して自分なりの解決策を発表してくれて本当にありがとうございます。

一回5人の意見を聞いたので、ここでほかのみんなも今出てきたテーマについて、今しゃべっていない人も含めて、ここを付け加えたいなとかということを書いてみたいと思います。

今出てきたことは、すごく多様だったのですが、例えば居場所のことは吉村さんもあゆさんも言ってくれたかな。こどもたちが過ごす場所とか、いろいろこどもが抱えている生きづらさだったり、家庭の事情で勉強ができないとか、そういう居場所についてもっと話したいなとか、あと、皆さんがふだんどんなところで過ごしているのかなというのをもしかしたらもうちょっと教えてもらえると、施策を考えるときの大人のヒントになるかなと思うので、ぜひお話を聞きたいなと思いました。

あとは、ジェンダーとかプライバシーの話、今、もあなさんの話を聞いて、うちの学校にもこんな変なルールがあるぞとか、そういうのがあったらぜひ教えてもらいたいな。

あと、それ以外にもいろいろな今出てきた話で付け加えたいこととかがあったら聞いてみたいなと思うのですが、いかがですか。

桜生さん、どうぞ。

○桜生さん 私は男女の差別というか、そのギャップについてなのですが、似たようなのではないけれど、私の学校でも男女の差が激しく見えることが一つあって、クラス内で男の子は突っかかりたりするとかいうイメージがあって、女の子はしっかりしていろいろちゃんとできるイメージがあって、その間に壁みたいなのがあって、よく男女でけんかが起こります。それが全然静まらず、先生たちやけんかに交わってない子たちとかが止めるのにすごく苦労したり、私も見ていて止めてあげられず、苦しい思いをするので、そこは個人的な問題になってくるかもしれないのですが、どうにかしたいなと感じたことがあります。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） それは先生が男の子はこう、女の子はこうみたいになっているということですか。

○桜生さん いや、先生はみんな同じように接してくれるのですが、私たちの中で何かそういうものがある。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） みんな自身も、もうそのように思っちゃっている。なるほど、ありがとうございます。

ちなみにそう思ったのっていつ？ 気づいたらそうになっていた。

○桜生さん 気づいたらそうになっていたかな。1、2、3年生はみんな仲よく頑張っていた感じで、男の子の中でもちゃんとできる子もいるけれども、そう

いうところを意識しちゃって、いつの間にかそうなった感じです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

ほかにはいかがですか。

夜空さん、どうぞ。

○夜空さん 公園でボールが使えなくなるというのが、最近確かに多くなったのですけれども、豊島区だと区長に意見を言う場があって「としま子ども会議」というのですけれども、それで公園でボールを使えるようにしてほしいと（「豊島こども大学」で）僕が言ったら使えるようになって、柔らかいボールならオーケーとなって、うれしいなど。

○あゆさん 学校とかも地域によって違ったりであったり、公園とかの許可もなかったりするではないですか。やはりいろいろな地域によって評価が必要かなと思います。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 地域による格差、ありがとうございます。

○れいかさん 私は遅刻している子がいて、1人の遅刻している女の子ともう1人の男の子がいて、女の子が何かいつも怒られていて、また遅刻している男の子が怒られてなくて、何でだろうとっていて、だから、その女の子がかわいそうだなと思って、差別的という感じかな。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

それは先生が怒る子と怒らない子がいるということ？

○れいかさん いつも、2、3、4、5、全部の学年でその女の子は怒られていて、その男の子は怒られていないので。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 1人の先生の問題でもなさそうですね。

木村さん、どうぞ。

○木村さん 私は女子校に通っているのですが、もともと異性がないところがいいなと思って女子校に入りました。ただよく考えると女子校は女子しか入れないのは、性別を決めつけてしまっていて大丈夫なのかなと思いました。確かに女子校が存在したから私はそこに入りたかったと思うので、私としてはありがたいことだけれど、性同一性障害の人はどうなのだろうかなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） LGBTQの子が入れるかなとちょっと思ったということですね。ありがとうございます。確かにそのとおり。

あと、今話していないのは、カイさんとか、今、この話の中で何か思ったこととか、うちの周りにもあるなと思ったこととかはありますか。

○カイさん 僕の周りの公園でもシーソーとかすべり台などがなくなってきていると感じたことがあります。シーソーのほうが楽しいのに、例えばほかの動かない遊具とかになってしまって、危ないからとどんどん変えていってしまうのはよくないのではないかと思います。

○吉村さん 僕の家近くの公園とかでも、シーソーとか人が乗ってぐるぐる回す遊具とかがあるのですけれども、そういうのがなくなってきて、前、僕はそういうのが好きだったのだけれども、なくなってしまって、何か寂しいなという思いがあります。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） どの地域の公園にも危ない遊具がどんどん減らされているというのが衝撃の事実です。みんな、そういうときはどう思いますか。なくなったなと思うのか、それとも、もしどこかに言ったら変わるのだったら言ってみたいなと思うのか、どうですか。

○木村さん 公園に遊具がなくなり、そもそも遊ぶものがなくなってしまったら公園に行くのをやめようという気になってしまう。近所にある公園は1個のブランコしかなく、もう1つ近所にある公園は犬の糞がよく落ちていて、あまりいい噂を聞かない。しっかり管理をしてほしいし、もっと楽しくて面白い遊具を出してほしいなと思う。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 夜空さん、どうぞ。

○夜空さん 遊具がなくなったりしたときは、ほかの公園に行ったりして探すのもあり、自分の家から持っているものを使って遊んだりしています。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） れいかさん、どうぞ。

○れいかさん 私の近くに公園はいっぱいあって、そこにはブランコとかシーソーはあまりないけれども、ボルダリングみたいなやつがいっぱいあって、京都の話だけれども、それでももうちょっと周りを見ていくと、遊具が全然ないところとか、体操というか運動する遊具みたいなものしかないとか、広い公園に行くと面白いのとかがあったり、旅行とかに行くと、たまたま公園で遊具とかがあって、その遊具が結構大きかったりして、何でないところとあるところがあるのだろうと思った。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 地域の格差の話ですね。ありがとうございます。

まだまだ居場所についても、きっと公園以外のこともあるかなと思うのですが、そうしたら、まだ話していない3人からの意見を聞いてみたいなと思います。

桜生さん、いかがですか。

○桜生さん 私が国に伝えたいことは4つあるのです。

1つ目が、学校の英語の教育です。私は海外に住んでいた経験がありますが、そこでは第1言語は国の言語だけど、英語もいっぱいしゃべっていて、普通にどちらでもうまく使えているという環境で、私もしゃべっていました。

日本の学校では日本語というのが大きくあって、英語というのがあまりしゃべられていない感じで、私の学校では教育とかをちゃんとやってくれているの

ですが、海外ではもう少し生活に取り入れていて、小さい頃からテレビとかそういうところで普通に聞き慣れていくと、自然に覚えていくものだと思うのです。変えていくのは結構時間がかかりますが、もしそうできれば、もっと世界とつながり合えると思うし、いろいろな国の人たちと英語をしゃべっていくことができるから、もっと自分の話題とが広がって面白いのではと思います。

2つ目が、学校の体育の授業についてです。私は学校で毎年水泳と縄跳びと跳び箱と、ほかにも幾つか競技をやるのですが、1年生から6年生までだんだんと難易度が難しくなっていくけれど、同じようなことを結構やっているのもっといろいろな競技、例えばバスケットとか。バスケットは同好会ぐらいしかなくて、バスケットをやってみたいとか、バドミントンをやりたいとか、やっている学校もあるかもしれないけれど、いろいろな競技を取り入れていくことで、もしかしたら将来そういう道に進めるかもしれないし、自分の視野が広がるのではないかなと思います。

3つ目が、放課後の過ごし方です。私の学校にはクラブ活動というのがあって、それが水曜日の7時間目に2週間に一遍か3週間に一遍の頻度でしかありません。中学に入ったら部活とかも入ってくると思うのですが、もっと放課後を楽しんで、いろいろな人と、友達と一緒に自分の好きなことを究められるし、とにかく友達と一緒にやれるからすごく楽しいので、もし放課後の時間を使って、時間が空いている人たちだけでも集まって、クラブ活動ができるのではないかなと思います、取り入れてほしいです。

もう一つは、世界のことなのですが、最近テレビとかで地球温暖化のことをよく聞くではないですか。私は具体論とかは思い浮かばなかったのですが、とても心配だなと思っていて、自分たちが大人になる頃はもっと気温が高くなっているとか、ほかの国では海面上昇によって土地が減ってきているなど聞いたことがあるので、そういうのが自分の身の回りとかで起こって、台風とか震災がよく起こるようになって不安が募ってくると思うのです。こども家庭庁ができたときには、こどもたちが身近に行える対策とか、あとはこういう感じで、そういうことに対する不安とかも話し合えたらいいなと思います。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

学校生活のいろいろなカリキュラムのこととか、過ごし方とか、それだけではなくて、地球温暖化のこととか、やはりみんなが生きている地球で、この先大人になっていくこどもたちのほうが長く生きると思うので、重要な指摘をありがとうございます。

そうしたら、カイさん、お願いします。

○カイさん　僕が国に伝えたいことは2つあります。

まず、学校の図書室に本をたくさん入れてほしいです。公立図書館とか地域、例えばある市だったら、その市の中とかではなくて、ほかの県とかと協力して、いろいろな本を学校の図書館などに取り入れてくれたらいいと思います。あと、本はなくて困ることはないけれども、あると便利ということです。

その同じようなジャンルで言えば、公園など市の施設、公立の施設などに市などのフリーWi-Fiを入れてほしいと思います。理由は、今、インターネットの教材というか、タブレットが学校などで配付されているので、そういうのを公園などでできたら便利かなと思うからです。

ありがとうございました

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 図書館と公園という、自分が過ごす身近なことをお話ししてくれてありがとうございました。

最後に、れいかさん、お願いします。

○れいかさん 私は貧困のことで、こどもが病気なのに我慢して病院に行かされないのに、何でそうなるのかというので意見を言いたいのです。私が考えたのは、月に1回、校医さんによる無料健康相談をして、こどもの権利条約の第24条に、もし病気になったときでもお医者さんに診てもらい、一番よい方法で治してもらう権利がこどもにはあると書いてあって、それで、コピーなのですけれども、この本に書いてあって、1990年9月21日に、日本はこどもの権利条約に署名をしたのに、国は全然していないということです。

2つ目は、保健の授業で、こどもには相談する権利があり、病院の費用のこともきちんと教え、全国の学校にパンフレットを配ってほしいことです。保健の授業では病気の予防については習いますが、病気になったときにどうしたらいいか教えてはもらっていないので、やってほしいです。

それで、このことを厚生労働省にも伝えてもらいたいです。詳しいことは、ここに私がちょっと載っていて、毎日小学生新聞という毎日新聞の小学生版で、一番最初に言ったのと2番目に言ったのが書いてあります。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 医療のことでしたが、こどもの権利という言葉が今出てきました。ぜひパンフレットを配ってほしいとか、自分が病気になったら病院に行けるのだよ、無料なのだよということを教えてほしいとか、そういうことを教えてくれて、本当にありがとうございました。

夜空さん、どうぞ。

○夜空さん れいかさんの今の話を聞いて、豊島区でこどもに関する条例の分かりやすい4コマ漫画を配っていて、これはみんなにも分かりやすくってというのがあって、もう一つ言いたいことがあって、こどもの権利条約をこどものなりたい職業ランキング上位のYouTuberの方に説明してもらい、勉強ばかりではなくても大丈夫、悩むことがあっても自暴自棄にならなくて大丈夫と、こども

たちが笑顔になれる強いメッセージを出してほしいです。

事前打ち合わせのときに、めぐちゃんからこどもの権利条約が正しく伝わらないとねと指摘されたので、動画の台本はこども家庭庁の職員さんにつくってもらい、小倉大臣にも出演してもらおう。

○小倉こども政策担当大臣（まあくん） いい提案をありがとう。

○夜空さん あと、これは豊島区で配られているタブレットなのですけれども、この画面を見てください。山上容疑者の生い立ち、それで、安倍元首相を銃撃したことは、どんな理由でも許せないことだと思います。8月22日放送の時論公論で、宗教のことで行政は介入できない、家族のことはまず家族で、それは親子の問題だと述べていて、18歳は今成人ですが、こどもの頃の山上容疑者を救えたのは行政しかなかったのではないのでしょうか。

めぐちゃんが一度失敗したらやり直せない社会とおっしゃっていましたが、山上容疑者はニュースで優秀な学生だったと放送されていましたが、家庭環境のせいで大学に行けず、就職氷河期の就職にも困るようになっていました。一度失敗したら生きていくのに困る社会では駄目だと思います。もしこのままの日本だと、インターネットに銃の作り方が載っているのも、同じような事件が起きないか心配です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

少し補足すると、みんなとは一度事前の説明会をしていて、そこでどんなことを話したいとかというのをやっていたのです。そのときに、夜空さんがこどもの権利のこととかを話していたので、では、正しく伝えるにはどうしたらいいかなという話をしたときに、多分今日考えてきてくれたのだと思います。ありがとうございます。

○小倉こども政策担当大臣（まあくん） YouTuberと夜空さんと私と3人で。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） たくさんの人に伝わってほしいからYouTuberがいいと、事前の打ち合わせでは教えてくれて、ありがとうございます。

ほかに、今出てきた話の中で伝えたいなとか、こんなことも言いたいなということは。

れいかさん、どうぞ。

○れいかさん 私のクラスで、私の学校では人数が少なくて1クラスしかいなくて、発達障害の子がいて、3年生のときに、その子に嘘を吐かれちゃって、担任の先生があまり発達障害という子のことを知らなくて、それで、どう対応していいか分からなくて、最後にはもう私は泣いて、ずっともやもやしてやってきて、それで、お母さんとかが先生に何回もその子のことを言ったりしたら、やっとスクールカウンセラーの人も動いてくれて、教頭先生とかも動いてくれて、それで、その子のお母さんが何かいい加減な感じの人だったので、その子

とかがちゃんとどう対応していくか、先生に教えていってもらえたらいいです。
○西崎ファシリ（めぐちゃん） 先生の適切な指導とかですかね。多分どのよう
にやったらいいかというのをきっと先生自身も知らないのかもしれないです
よね。ありがとうございます。

もあなさん、どうぞ。

○もあなさん さっき言いそびれたことなのですけれども、SDGs に関すること
で、児童クラブという放課後の預かりのところがあって、そこで残されたおや
つや、まだ食べられるものを休んだ人の分などは捨てていて、理由はいろいろ
コロナとかあると思うのですけれども、それから、教材がプラスチックのもの
が多いことと、その児童クラブで上靴を履くことがないというか、上靴も履い
ていない靴下の状態で過ごしていることは、学校と放課後の居場所でルールが
異なっている矛盾を感じています。そして、教科書が分厚くなっていて荷物が
重たくなっていることと、それで、部活が運動系だと、熱中症対策もあり水筒
に入れている量が日常より増えているので、それでも荷物が重たくなっている
ということと、これも教科書が分厚くなって、タブレットも増えて机の中が狭
くて、あまりたくさんのもが入らないので、ロッカーのランドセルを第 2 の
置き場にしているため、机の収納量を大きくしてほしいということも直してほ
しいなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

学校生活にまつわるあれこれを聞かせていただきました。

まだまだお話を聞きたいなと思うのですが、そろそろ時間も迫ってきている
ので、どうしてもこれは言いたいなとか、もし今言い残したことがあるなとい
う子が入れば、ぜひ。

カイさん、いかがですか。ずっとオンラインで聞いてもらうことのほうが多
かったかなと思うので、今日参加した感想でも大丈夫です。もし何か話したい
ことがあれば、ぜひお願いします。

○カイさん 僕は今日参加できて本当によかったと思っています。自分以外の
こどものいろいろな意見も聞けたし、これが実際、国の政治とかに関わると思
うと、やはりやってよかったなと思うからです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

ほかに、もしあれば。

○木村さん 私は実は 5 年生のとき、不登校になってしまい、学校に行けない
時期がありました。そのときに、先生が家に来る機会があり、家の前まで来て、
家の周りをちらちら見られたりしたことがあったので、こどものプライバシー
も守ってほしいなと思いました。不登校になってしまったとき、私はよく配ら
れる相談窓口で電話したり、チャットを使って言いたいことを言って相談に乗

ってもらったりしていました。先生が心配してくれるのはとてもありがたいことだけれど、私の家に来るといったようにプライバシーが守られていない行動はやめてほしいなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 本当に、多分言いにくいことを言ってくれてありがとうございます。

どうぞ。

○れいかさん 私は最近だけれども、SDGsの薄い本があって、こどもが読めるSDGsの本で、その本の最後ら辺に、大人たちに訴えようというところがあって、そこで、学校で窮屈な子がいたりとかして、前にも言った怒られている子と怒られていない子のこととか、発達障害の子とかがいたりしているのに、何で大人たちは自分のことばかり考えているのかなと思って、それにも何か達成できたかなと思っています。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

まだまだ言い足りないことがあったり、言いたかったけれども、言えないことがもしかしたらあるかもしれないので、それはまた終わった後にアンケートの紙があるので、ぜひ皆さんの思いのたけを教えてもらえたらなと思います。

では、司会を渡辺さんに、そう言えばお名前を聞いてなかったな、由美子さんに戻します。

○渡辺室長（由美子さん） 本当に皆さんの意見、今日は私もとても勉強になりました。ありがとうございました。

それでは、最後に大人の皆さんから一言ずついただきたいと思います。

まず、はなこさん、お願いします。

○自見内閣府大臣政務官（はなこさん） こんばんは、はなこです。

私は、国会議員というお仕事をさせていただいて、今は政府というのですけれども、まあくんの下で、来年の春にできるこども家庭庁の準備に関わっています。もともと小児科のお医者さんで、本当にこどもまんなかの世の中になるといいなと思って活動してきたので、今日のお話は、本当に一人一人のお話、言いにくいこともあったと思うし、自分で言っているのかなと悩みながら言ってくれたのがたくさんあったと思うのですが、すばらしい意見を言ってくれて本当にうれしく思っています。

こどもの居場所のところで、外遊びについてすごく意見がたくさん出たのは、とてもうれしいなと思って、大人の私たちの感覚だと危ないからといって、いろいろなことを、むしろ置かないほうが危なくない、だけれども、みんなはそれよりも楽しめるかなとか、お友達と一緒に過ごせるかなとか、危ないということも分かってはいるのだけれども、体を動かすと楽しくなるとか、そういうことをちゃんと伝えてくれていて、こういうことが大人の意見とこどもの意見

の両方をちゃんと聞いて、そして、こどもだったら、これはやはり置いてほしいのということです、豊島区はすごいですね、子ども会議がある、こういうことをまさに言っていただくのが今日の間でしたけれども、こういう機会をどんどん増やしていくというのが、私たちにもすごく重要だということを今日改めて思いました。

あと、こども基本法というのが今年の6月15日に国会という場で成立していますので、ですから、ぜひみんなとこれからこども基本法の中身についても一緒にお勉強する機会があるといいなと思いました。

今日は本当にありがとうございました。

○渡辺室長（由美子さん） たかえさん、お願いします。

○伊藤文部科学大臣政務官（たかえさん） 伊藤孝江です。今日は本当に参加してくれて、また、私もここに参加をさせてもらって、本当にありがとうございました。

今日のためにすごい準備をして、いろいろなことをまとめてくれたり考えてくれたり、でも、それだけではなくて、ふだんから自分のことだけではなくて、地域のこととか、学校の周りのみんなのこととか、本当にいろいろなことを見て考えているのだなということを改めて気づかせてもらって、やはりこのこどもまんなかフォーラムはこどもを真ん中に置きながら、一緒にいろいろなことを考えさせてもらわなあかんというのを改めて今日は感じさせてもらったと思っています。

私は今、文部科学省というところで、最初に紹介をしてもらったみたいに学校のいろいろなことを決める役所で仕事をさせていただいて、今日も学校のことをたくさん出てきました。その中でも本当に具体的な意見もたくさんもらったので、また、それをこれからしっかりと制度をつくっていくことができるとか、変えていくことができるように、今日の意見をいただいて頑張りたいと思っていますので、また、今日のことをきっかけに、これからももっともっというろいろな声を上げてもらって、また届けてもらって、一緒に頑張ればなと思っています。今日は本当にありがとうございました。

○伊佐厚生労働副大臣（しんちゃん） 私も本当に参加してよかったです。国会はいろいろなことを決めますけれども、大人しかいないじゃないですか。そこで物事を決めるけれども、やはりこどもの皆さんの目線から見れば、こういうことが実は大事だったのだみたいなことがすごい分かって、だから、さっきの夜空さんが言った豊島区の例なんて、そうやって声が実際に届いて変わっていったことを考えると、豊島区だけではなくて、国だって同じように、皆さんの意見をちゃんと受けとめて、また、そこからいろいろなものが変わっていくというのはすごい大事なことだなと感じました。だから、さっきれいかさんが

厚生労働省に対して、病気になる前の予防ではなくて、なった後にどうするかというのをちゃんと教えてほしいというのは、すごい大事な視点だなと思ったので、厚労省にちゃんと持ち帰って、しっかり皆さんと議論したいなと思います。

あと、遊具は、僕は小さい頃、こどものことを考えたら確かにいろいろな遊具で遊んでいたなと思って、私も小学校の自分の娘と遊びに行ったら、確かに今は全然ないなというのをすごい感じたので、遊具は大事ですよ。ありがとうございました。

○小倉こども政策担当大臣(まあくん) 本当にみんなありがとうございます。

まだまだみんなの話を聞いていたいなと思いました。本当にすてきなと思ったのは、みんな具体的で建設的な意見をどんどん言ってくれてすばらしいなと思いましたし、あと、思ったのは、皆さんは意見を言うだけではなくて、ちゃんと聞いてくれていたでしょう。しゃべっている人の話を聞いた上で、みんな意見を言ってきて、やはり意見を言うと同時に人の意見を聞くということも重要だと思っていて、それをみんな本当に実践してくれていて、すてきな時間を過ごさせてもらって本当にうれしく思いました。

もあなさんが言ってくれた内科検診で男性のお医者さんが女の子を診るとか、男の子と女の子と着替える場所が一緒とか、そんな話を聞いて、これまで大人がつくっているルール、大人だと許されないけれども、こどもだったらしてもいいかなと大人が勝手に考えて、こどもに押し付けているルールがたくさんあるのだと思います。

外遊びの話が出ていましたけれども、公園であればやっちゃ駄目、これはやっちゃ駄目と、どんどんやれなくなることが多くなる理由の一つに、大人が苦情を言うからなのです。こどもの声がうるさいと周りの大人たちが市役所に言うと、市役所は、では、あれはやっちゃ駄目、これはやっちゃ駄目、こどもがボール遊びをして遊具で遊んでけがをすると危ないから、遊具を撤去してと言うと、やはり大人の声に押されて市役所の人たちは遊具を撤去したりとか、ボール遊びはやっちゃ駄目というルールをつくったりしているのも実はあるのです。だから、それもやはり大人中心に考えて、この社会のルールというのが決められてきた。こども家庭庁ができた暁には、それをしっかりこどもの皆さんの意見を聞いて、大人が中心に考えてきたこの社会のルールというのを大きく変えていきたいなと思いました。

そういう意味では、最初に言ったように、来年、ここにいるはなこさんとたかえさんとしんちゃんと私まあくと4人でこども大綱という大きなルールをつくりますので、今日、みんなが言ってくれた意見をくまなく、このこども大綱づくりに反映していきたいと思えますし、できれば、こういうみんなと近い

年、同世代の人たちと、我々大人たちが同じ目線で一つ円になって、みんなの意見をしっかりと聞くという場所をこども家庭庁ができる前から、ちゃんとつくっていきたいなと思いました。本当に今日参加してくれてありがとうございました。

以上です。

○渡辺室長（由美子さん）　ありがとうございました。

今日はちょっと時間オーバーするぐらいの熱心な議論を本当にありがとうございました。

それでは、これで「こどもまんなかフォーラム」を終わります。ありがとうございました。